



E ひえだ 稗田環濠集落



大和平野に多く造られた、周囲を濠に囲まれた集落の遺構の一つです。戦国の争乱のなかで農民たちが自衛のために造った施設であり、また農業水利の便を図るためのものであったと考えられています。一時的に雨水をため、少しずつ川に流し込むという、治水の役割も果たしていました。

F 高田川畔の千本桜



大和川の支川、高田川では堤防沿いの桜並木が市民の憩いの空間として親しまれています。昭和23年に植樹された桜並木が今日では「千本桜」に成長し、住民のお花見や散歩のコースになっています。また、水辺プラザ整備事業による親水空間の整備も進み、環境学習や安らぎの場にもなっています。



G 曾我川治水緑地

曾我川の中流部で治水と浸水被害の軽減を目的に整備された遊水地。周辺の緑地は住民から都市公園としても利用されています。大和平野での大規模な遊水地計画は初めてであり、貯留型の治水計画を進めていく上で、今後の指針となっています。親水施設等も整備され、環境学習に最適です。



H 与喜山暖帯林

大和青垣国定公園北部の春日山と高円山、南部の天神山と三輪山は、それぞれ原始林と二次林の対照的な植生を持っています。このうち、天神山は昔から長谷寺の寺領として伐採が禁じられてきたので、原生林が鬱蒼と茂り、「与喜山暖帯林」として昭和32年に天然記念物に指定されました。



I 吉野川分水

吉野川の水を奈良盆地に送る「吉野川分水」は住民の悲願であり、1987年の大工事でその願いが実現しました。大淀町下流からトンネルを通して吉野川の水を奈良盆地に送る。これが吉野川分水です。御所市において東側と西側に分かれる分水工を経由して、奈良盆地内に水が送られています。

「大和川流域委員会」とは

国土交通省では、平成9年の河川法改正に伴い新たな「河川整備計画」を策定することになりました。同省近畿地方整備局は、今後概ね30年間の具体的な河川の整備の内容を示す河川整備計画を策定するにあたり、学識経験者等から意見を聞くために、各水系に流域委員会を設け、大和川では平成16年に「大和川流域委員会」を設立しました。大和川流域委員会は「大和川水系河川整備計画（原案）」の策定にあたり次のことを行います。

- (1) 河川整備計画の原案について意見を述べる
- (2) 関係住民意見の聴き方について意見を述べる



委員会メンバー（50首順、敬称略） [※平成24年4月1日現在]

- 伊藤忠通（奈良県立大学地域創造学部教授・学長：経済）
- 井上和也（京大名誉教授：河川工学）◎委員長
- 沖村 孝（神戸大名誉教授、財団法人 建設工学研究所常務理事：地盤工学）
- 荻野芳彦（大阪府立大名誉教授：農業水利、水資源環境工学）
- 加我宏之（大阪府立大大学院生命環境科学研究科准教授：緑地計画、景観計画）
- 黒田伊彦（元大阪樟蔭女子大講師、大和川市民ネットワーク副代表：歴史、教育、地域活動）
- 小松清生（元堺市立錦小学校教諭、大和川市民ネットワーク事務局長：教育、歴史）
- 椎葉充晴（京大大学院工学研究科教授：水文学、水資源工学）
- 千田 稔（奈良県立図書館情報館長、立命館大大学院文学研究科客員教授：歴史地理学）
- 谷 幸三（元大阪産業大人間環境学部生活環境学科非常勤講師、晴れの国野生生物研究会 会長：水生生物の分類と生態、環境教育）
- 中川 一（京大防災研究所流域災害研究センター河川防災システム研究領域教授：治水[土砂移動]）
- 仲川政成（橿原市五井町総代、五井町自主防災会会長：地域の歴史、地域活動）
- 前迫ゆり（大阪産業大大学院人間環境学研究科教授：植物生態学、保全生態学）
- 森下郁子（社団法人淡水生物研究所所長：生態系）
- 山下 淳（関西学院大法学部教授：法律）◎委員長代理
- 米田 稔（京大大学院工学研究科教授：水質、土壌汚染、環境リスク解析）
- 和田 萃（京大名誉教授、奈良県立橿原考古学研究所指導研究員：日本古代史）

ホームページと広報誌のご案内

大和川流域委員会の活動はホームページと広報誌「大和川流域委員会ニュース」でご覧いただけます。「大和川流域委員会ニュース」は、ホームページ「ニュースレター」のコーナーからダウンロードできます。



<http://www.kkr.mlit.go.jp/yamato/iinkai/>
 <お問い合わせ>
<http://www.kkr.mlit.go.jp/yamato/consult/>
 [※表紙写真は和歌山コンクール入賞作品]

大和川の未来を考えます

第22回大和川流域委員会
 (H25. 3. 13)
 資料 4-3



大和川周辺の魅力・見どころ

A みこしとぎよさい 神輿渡御祭



鎌倉時代に始まったとされる住吉祭の神輿渡御は、40年以上途絶えていましたが、2004年に復活しました。「ペーラ」のかけ声とともに繰り返し神輿を差し上げながら、紀州街道を大阪市の住吉大社から堺市の宿院頓宮まで練り歩きます。途中、大和川の河中を渡る光景は大阪夏祭り締めくくりにふさわしく壮観です。



B 治水記念公園

昔から洪水の絶えなかった大和川。江戸時代に、その解決のため大和川の流を変え、淀で汚れた水を沈めさせたのが庄屋である中甚兵衛でした。柏原市にある付け替えの起点となった場所には、現在治水記念公園があり、幕府を動かした中甚兵衛の像が建てられています。



C 瀬と淵浄化施設

瀬と淵浄化施設は、川を持つ自然浄化作用を利用します。瀬で酸素を水に溶け込ませ、淵で汚れを沈めさせます。瀬の石には微生物が付着し、その微生物が汚れを分解します。大和川下流の各所に設けられており、河川に新たな魅力を生みだし、散策や水辺活動のスポットになりつつあります。



D 亀の瀬狭窄部

大阪府と奈良県の境にある深谷で、水際まで河畔林が覆う景観は美しく変化に富んでいます。亀の瀬の下流部には平瀬や砂洲が形成され、水と緑が豊かな貴重な空間です。地すべりを止める主な工事は完了し、排水トンネル見学など、防災学習の場としても利用されています。

大和川流域委員会

明日の大和川をみんなで考えました。

大和川流域委員会で話し合ってきました
いくつかの意見を紹介します

流域委員会設立会
日 時：平成16年5月29日(土) 17時00分～17時45分
場 所：天王寺東映ホテル

第1回 流域委員会
日 時：平成16年5月29日(土) 18時00分～19時46分
場 所：天王寺東映ホテル

第2回 流域委員会
日 時：平成16年8月25日(水) 15時00分～17時50分
場 所：奈良県新公会堂

- 大和川は日本の原点のような川なので、河川整備計画では歴史的な特徴が感じられる川づくりが課題。
- 治水・利水・歴史について現地体験できる流域全体のサイトミュージアムを提案したい。

大和川流域委員会「現地視察会」
日 時：平成16年9月28日(火) 9時30分～16時30分
場 所：大和川国管理区間
[河口部、高規格堤防(大和川線地区)、浅香付近、河川浄化施設、大和川付け替えポイント、国分地区、亀の瀬狭窄部、亀の瀬地すべり、安堵町・河合町付近、曾我川浄化施設、大和川・佐保川合流付近、大和郡山市付近、稗田環濠集落、佐保川国管理区間上流端、総合治水対策(雨水貯留浸透施設)、羅城門跡]

第3回 流域委員会
日 時：平成16年11月29日(月) 13時00分～15時50分
場 所：梅田センタービル

- 水辺の国勢調査のデータを提供してほしい。外来植物の問題等、データで判断する必要があるが、河川敷の自然を保全する視点が必要であり、過剰な整備は不要である。
- 大和川は生活と結びつき、仕事や遊びの場だった。歴史や文化を大切に、遊べる大和川を復活させることが必要だ。

第4回 流域委員会
日 時：平成17年1月28日(金) 9時30分～12時30分
場 所：大阪厚生年金会館 ウェルシティ大阪

- 川の生物相は源流の姿を反映するが、大和川は付け替えられた時点で源流がもつ生物本来の姿から変えられており、歴史と人がつくりだした川ということが興味深い。
- 生物は長い歴史の中で、上流の石のところ、砂のところなどに棲み分けられてきた。多自然工法などの場合も、工事地点にどう生物が棲んでいたかを調べて、それに即してものにするべき。

第5回 流域委員会
日 時：平成17年3月14日(月) 13時00分～16時00分
場 所：王寺地域交流センター リーベル王寺

- 圃場整備は水路のコンクリート化で浄化機能が失われている点に留意する必要がある。
- 環濠集落特有の「請堤」が不用意に壊されることが多くなっている。奈良盆地特有の治水を考えるうえで、洪水を遊水させる請堤を再認識する必要がある。

第6回 流域委員会
日 時：平成17年6月14日(火) 15時00分～18時00分
場 所：王寺地域交流センター リーベル王寺

- アユモドキ、ホトケドジョウ等は川と水田を行き来し、水田のところまで産卵する魚類。昔は川と水田のつながりがあったが、今は行き来がしにくくなっている。
- 治水的に見て、奈良県側と大阪府側では川の性格が違う。特に王寺から上流は河川網ようになっており、治水の方法も形態が変わると思われる。大和盆地で実施されている総合治水の具体的な内容、施策について具体例や写真等を見せて欲しい。

第7回 流域委員会
日 時：平成17年9月1日(木) 15時00分～18時00分
場 所：大阪厚生年金会館 ウェルシティ大阪

- 大和川では、緊急対策時に河川敷を利用する物資移送等の道路計画がどの程度考えられ、実行されているのか。
- 亀の瀬の地すべりと奈良盆地を流れる諸河川が全部集中して、本川に注ぎ込むことが、大和川における治水のウィークポイントだと思う。

第8回 流域委員会
日 時：平成17年10月14日(金) 15時00分～18時00分
場 所：大阪厚生年金会館 ウェルシティ大阪

- 治水において、ソフトとハードの組み合わせが大事だと思う。
- 危険なゴミの除去や土砂の堆積、亀の瀬の地すべりによる河床の隆起の問題に加え、川底の対策も、治水の面で安全な川づくりを考える上で重要である。また、1982年の水害の後、亀の瀬の狭窄部に地下トンネルを造って流すことを大和川河川事務所が検討しているの、それについても踏まえる必要がある。

大和川流域委員会「現地視察会」
日 時：平成17年11月22日(火) 9時30分～16時30分
場 所：大和川国管理区間
[瀬と淵浄化施設、石川合流点(ヨシの群生)、石川河川公園、竹内峠(金剛山系の植生の状態)、桜井市金屋河川公園、長谷寺(照葉樹林の様子)、初瀬ダム周辺(植生管理の状態)、唐古池(溜池)、御幸橋(富雄川と大和川の合流点)、富雄川、東生駒川総合浄化施設及び竜田川との合流点]

第9回 流域委員会
日 時：平成17年12月21日(水) 9時30分～12時30分
場 所：奈良県文化会館

- 流域委員会は河川整備計画について意見を申し上げるという立場であり、河川整備基本方針に関して踏み込むことはないと考えている。また、河川の横断的な形状に関しては大事なファクターだと思う。
- 子どもが安心して遊べる川を目指すという点では、糞便性大腸菌の多い原因を明らかにする必要があるのではないか。

第10回 流域委員会
日 時：平成18年2月15日(水) 13時00分～16時00分
場 所：奈良県文化会館

- 本委員会の委員は河川整備計画の原案に対して意見を申し上げる立場であり、今日の骨子案はその叩き台に至るまだ前段階の端緒という具合に考えている。
- 大体の意見は出たので、さらに実際のデータをこの骨子案に基づいて記載して貰って、それについて議論した方が前へ進んでいくのではないかなと思う。

第11回 流域委員会
日 時：平成18年5月15日(月) 15時00分～17時55分
場 所：大阪YMCA国際文化センター

- 水質関係ではBODだけではなく、濁度、窒素分、大腸菌群なども入ってくると思う。
- 大和川の付け替えは洪水対策だけでなく、近世大阪の資本蓄積や文化にも大きな意味を持っている。

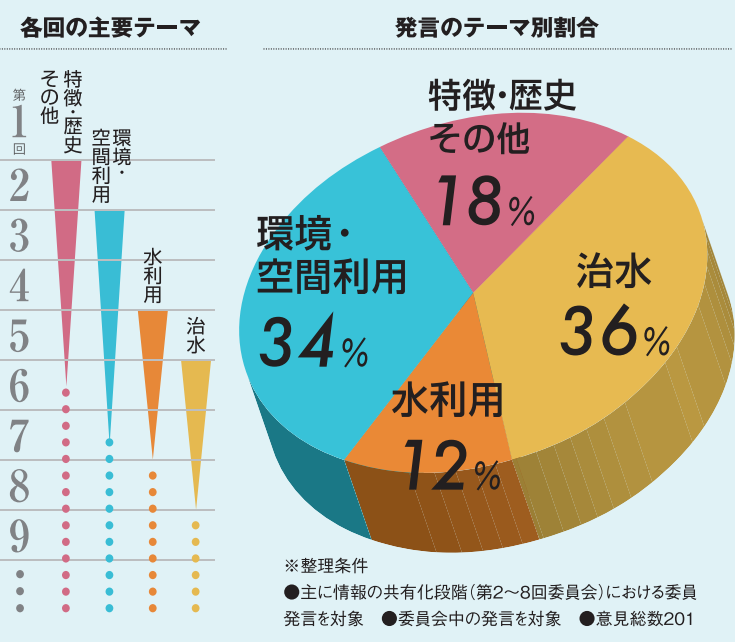
第12回 流域委員会
日 時：平成19年2月23日(金) 13時00分～15時35分
場 所：王寺地域交流センター リーベル王寺

- 市民や子どもたちとともに活動し、教育・研究分野の活性化を図っていくことを、水質浄化のためのCプロジェクト計画の中にしっかり位置づけてもらいたい。清掃だけで川がきれいになるとは思えない。企業の生産のところから含めてゴミを減らすことや、環境を考えたライフスタイルの問題なども提起すべきである。
- Cプロジェクトが流域委員会と連携していない。河川整備計画と整合して進めていくことが大事。

第13回 流域委員会
日 時：平成21年2月27日(金) 9時30分～12時00分
場 所：大阪厚生年金会館 ウェルシティ大阪

- 遊水機能の低下などにより支川から本川への流入が早くなり、降雨量の最高値と河川流量の最高値の時間差は年々小さくなっている。雨水貯留・浸透施設の計画の数値を住民協力により上げる必要がある。
- 大和川における堤防の耐震性の調査と地震対策についてどのような調査・設計を行っているか教えて欲しい。

いよいよ終盤です
今後、みなさまからの
ご意見をうかがいます



第14回 流域委員会
日 時：平成21年3月25日(水) 9時30分～12時00分
場 所：奈良県新公会堂

- 大阪と奈良は離れており、両所において公聴会を開くということを具体的に考えて欲しい。公聴会は願いや意見、利害関係を持っている人が参加するので、今後も続けて欲しい。
- 関係住民の意見の聴き方について、いつ何をどうするかという具体的なものがないと議論しにくい。

第15回 流域委員会
日 時：平成21年9月18日(金) 13時00分～16時00分
場 所：大阪YMCA国際文化センター

- 大和川の自然の状態について、目標につながる評価があった方が良くはないか。
- 堺の港の評価には、歴史的な部分を外すことはできないので、河口の評価の部分は歴史を踏まえたうえで、記述の仕方を検討していただきたい。

第16回 流域委員会
日 時：平成21年12月16日(水) 9時30分～12時40分
場 所：生駒市コミュニティセンター

- 大和川の治水計画は、奈良県の指定区間と本川との関係の整合がないと絵にかいたもちになる。奈良側との考え方を整理していただきたい。

第17回 流域委員会
日 時：平成22年2月19日(金) 10時00分～12時40分
場 所：大阪市中央体育館

- 河川景観の特徴として、下流部の典型的な景観も記載した方が、全体としての流れ、大和川の目指すべき風景像が明確になるのではないかな。また、河川景観の保全として、目標に掲げている歴史、風土を守りながらといったことも書いた方が良くはないか。

第18回 流域委員会
日 時：平成22年3月17日(水) 9時30分～12時35分
場 所：奈良県広域地場産業振興センター

- 整備計画のダイジェスト版は、ダイジェストにしたからこそ大事なキーワードが必要で、委員皆の意見を反映した方が良く思う。
- 大和川の水量が多くないということは初めからよく聞かされているが、湯水流量の長期的な見通しはどのように分析しているか。

第19回 流域委員会
日 時：平成22年6月21日(月) 15時00分～18時25分
場 所：大阪YMCA国際文化センター

- 戦後最大の洪水(昭和57年8月洪水)を安全に流下させることを基本とする、ことを明快に書く必要がある。

第20回 流域委員会
日 時：平成23年3月15日(火) 9時30分～12時30分
場 所：大阪市中央体育館

- 高規格堤防事業の見直しを受けて、流域委員会では、高規格堤防を整備計画にどのように位置づけるかが難しい。

第21回 流域委員会
日 時：平成24年3月12日(月) 13時00分～15時00分
場 所：大阪市中央体育館

- 整備計画原案は、高規格堤防について若干の補足、遊水池に関して今後の検討を残しているが、それ以外はかなり最終形に近づいていると思われる。
- 大和川水系河川整備計画の策定にむけたスケジュールは、遊水池に関する検討により延びるがやむを得ない。

第22回 流域委員会
日 時：平成25年3月13日(水) 9時30分～12時00分
場 所：公益社団法人 国民会館 武藤記念ホール

-